

令和元年度第6回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和元年9月18日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長)
大西 秀典(岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)

事 務 局 : 居波 由紀子(保健医療課 主幹兼感染症対策係長)
中澤 千怜(保健医療課 技師)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)
酢谷 奈津(保健環境研究所 専門研究員)

4 議 題 (進行:澤田委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題、情報提供すべき事項について
- (3) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (4) 前回の検討結果を受けた実績等
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
(委員からのその他のコメント)
- ・麻しんの報告に関して、IgMのみ陽性の症例とPCR陽性の症例を区別して集計・解析することは可能か?
(事務局)
- ・検査結果もすべて登録されるので区別することは可能。

【検討すべき課題、情報提供すべき事項について】

○結核

(事務局)

- ・県内の結核患者の高齢者の状況について事務局(保環研)から下記のとおり補足説明。

- ・岐阜県の結核患者全体に占める高齢者の割合は増加傾向にあるが、年代別の罹患率の推移をみると、70代、80代は減少傾向である。ただし90歳以上では罹患率の減少の幅は小さい。再燃による結核発病者が時代とともにより高齢化していると考えられる。

- ・県内の70代、80代、90歳以上の年代別の結核罹患率は、全国と比べて高い。

(委員からの意見等)

- ・国内では割合的には高齢者が多く、引き続き高齢者の結核早期発見のための対策が必要である。

- ・一方で若い世代では外国籍の患者が高い割合を占めており、外国出生者に対する結核対策も必要。また若い世代の日本人にも、「他人事ではなく身近にある危機」との啓発を行うことが大事ではないか。

(事務局)

- ・結核予防週間に合わせて、ぎふ感染症かわら版で高齢者の割合が高いこと、20～30代では外国出生患者の割合が高いことなどを一般向けにもお知らせする予定（保環研）。

- ・10月開催の技能実習生受入企業等を対象とした講習会で、外国人労働者の結核発症に関する啓発資料を配布予定（保健医療課）。

(委員からの意見等)

- ・外国出生者の結核の啓発については、国別の罹患率などのデータを示すと理解しやすいと思われる。

○百日咳

(事務局)

- ・百日咳のワクチンは接種から4～12年で免疫効果が減弱するとされている。また、百日咳は2018年から全数把握となったことで、国内の患者発生状況がわかるようになってきた。保環研では、次の2点をポイントに医療関係者向けの情報提供資料を作成中である。

- ・学童期の小児に罹患者が多く、その8割は4回のワクチン接種歴のある者（定期接種完了者）であること。こうした疫学情報を基に、国で学童期における百日咳ワクチンの追加接種について審議されていること。

- ・百日咳の検査診断においては、より正確な診断のためにLAMP法の活用が推奨されること。

(委員からの意見)

- ・医師からの届出に基づく百日咳の疫学情報が、予防接種制度のあり方を検討するための資料となっていることを知らせることは有用である。

- ・乳児の百日咳患者の死亡例等の情報があれば提示するとよい。

- ・より正確な検査診断を求めるのであれば、県内ではLAMP法による診断例の割合が全国と比べて低いことなども提示した方がよいのではないか。

- ・咳症状のみでは百日咳を疑わない医師が多いと考えられる。非特異的な症状、検査所見しか示さない百日咳患者もあることを知らせる必要があるのではないか。

○感染症発生動向調査における病原体サーベイランスについて

(事務局)

- ・感染症発生動向調査では、医師の届出に基づく患者サーベイランスと、患者の検体を用いて地方衛生研究所等で実施する病原体検査に基づく病原体サーベイランスが車の両輪とされている。病原体サーベイランスについて、目的や実施体制等について医療関係者と情報共有が必要と考えている。

(委員からの意見)

- ・全体を示すとなると総論的な話に終始してしまうので、参考となる疾患をトピック的に取り上げて説明するのが効果的ではないか。
- ・もっと前段階の話となるが、感染症の届出と食中毒の届出の区別なども医療関係者が整理できるような情報共有できるとよい。

○RSウイルス感染症

(事務局)

- ・流行開始時期の8月半ばにぎふ感染症かわら版で注意喚起を行った。

(委員からの意見等)

- ・パリビズマブは市町村単位で流行状況に合わせて接種開始時期を決めている。接種時期について地域の状況を把握しておくとういと思われる。

【前月までの検討結果を受けた実績等】

○結核

(事務局)

- ・結核予防週間に合わせて一般向けの啓発として「ぎふ感染症かわら版」を発行予定（保環研）。
- ・外国人を雇用する者に対する啓発資料を10月開催の講習会で配布予定（保健医療課）。

※いずれも上記「検討すべき課題：結核」で案を提示。

○百日咳

(事務局)

- ・医療関係者向け情報を発行予定（保環研）。

※上記「検討すべき課題：百日咳」で案を提示。

【保健医療課から情報提供】

(事務局・保健医療課)

- ・厚生労働省からの感染症関連通知、お知らせ等情報提供。